

第 41 回 定例情報交換会御質問事項への回答

1. スクリーニング調査（海外）

1. 1. IRS9009, 9010

[] の [] のトラブル情報が 2 件。[] の新聞記事もありました。いずれも、お粗末な事象のように聞こえます。[] のトラブルについて、[] 規制機関から規制庁への積極的な情報提供はありませんが、産業界、JANSI ではどれぐらい情報を得て、どのような状況にあると把握しているのでしょうか。

A. [] の [] について、JANSI は新聞等で報道された以上の情報を有していないため、当該発電所がどのような状況であるか把握していません。

これは、産業界においても同様であると考えています。

1. 2. IRS9012

まず運転中に燃料リークが検知され、出力下げて、停止後、燃料集合体を取り出したところ、粒子が落ちたり、被覆管にスケールがついていたりしたのと思います。粒子は、Zr-Nb 合金で、おそらく、HTP-M5 被覆管材と思われます。この燃料集合体は、Framatome 製で、R シリーズと呼ばれているようです。HTP-M5 被覆管材を用いた Framatome 製の R シリーズ燃料集合体は、日本では使用されているのでしょうか。使用されている場合、同様な不良経験はありますか。

A. 国内では当該燃料集合体は使用されておりません。

※枠内は国際機関との取り決めにより公開できません。

2. スクリーニング調査（国内）

2.1 NUCIA13179M 「加圧器スプレイ配管溶接部における有意な指示」

NUCIA13179 報告にもどって、再質問させてください。「事象発生時の状況」に、「大飯発電所 3 号機は、第 18 回定期検査を実施していたところ、8 月 31 日に加圧器スプレイ※1 配管の超音波探傷検査※2 において有意な指示が認められ、詳細な検査の結果、当該部に傷（深さ 4.6mm、長さ 67mm）があると評価した。」とありますが、この UT の位置づけと頻度を教えてください。前回のこの UT は、いつ行われたのでしょうか。そのときは、有意な指示はなかったのでしょうか。

A. この UT は、維持規格に従って計画した ISI の点検計画に基づいた検査の位置づけであり、定められた検査プログラムに基づいた頻度にて実施しています。

前回のこの UT は、平成 16 年の大飯発電所 3 号機第 10 回定期検査にて実施しており、そのときは、有意な指示はありませんでした。

3. その他

当初は、もんじゅ、ふげんのトラブル情報も NUCIA に含まれる計画だったと聞きましたが、断念したのでしょうか。もんじゅ、ふげんは発電能力があるので、IAEA では IRS に分類されています。

A. JANSI が過去に JAEA に対し、もんじゅ並びにふげんの NUCIA への登録を提案した際に、もんじゅのみ登録する旨の回答があったため、NUCIA にもんじゅ用のページを追設しています。

なお、現在もんじゅのトラブル情報は登録されていません。

以 上